

特集

〈事例〉

「東京オリンピック・パラリンピック」にボランティアで参加

公益社団法人
狛江市シルバー人材センター

(東京都)

「元気な高齢者の代表として、もてなしの心を生かし、二度とできない経験を一緒に楽しみましょう」。狛江市SCは、このような思いで「東京オリンピック・パラリンピック」にボランティアで参加する会員を募り、18人が決定した。活動内容は、会場周辺の観光・交通案内。「元気な会員を自慢し、海外にもシルバー人材センターをアピールしたい」。そんな意気込みもあるという。

狛江市は、多摩地域の東部に位置し、東は世田谷区、西・北は調布市、南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に隣接。面積は約六・四

km²で、全国で二番目に小さい市である。新宿駅から電車で二十数分と利便性が高い上、緑も多く、住宅都市として発展している。

センターの概況

狛江市SCは、昭和五十三年に狛江市高齢者事業団として設立し、(社)狛江市シルバー人材センターを経て、平成二十三年四月に公益社団法人に移行。平成三十年度は設立四十周年を迎え、盛大な記念式典の開催と四十年の歩みを記録した記念誌の発行を、会員による実

行委員会方式で実現した。

会員増加率が都内トップ

平成三十年度の事業実績は会員数が六百二十九人、契約金額が約二億百七十七万円(うち労働者派遣事業が約二千二百万円)であった。特筆すべき点は、会員数が平成二十九年より大幅に伸びていることで、前年度より五十二人増え会員増加率は一〇・二%(都内でトップ)。三十年度は前年度より六十五人増えて会員増加率は一一・五%(都内でトップ)と躍進している。

その原動力は、新たに入会した会員に不安を感じさせないように、事務局で親身になってそれぞれに

適した就業を探してすぐに声掛けをすること、地区の組織からも声を掛けて、さまざまな活動(ボランティア、地域のイベント参加など)に誘い、仲間として迎えていることである。

また、既存の会員も、就業はもとより、会員活動に進んで参加しなくなる雰囲気をつくり、充実した時間を共に過ごしている。その中で、会員のセンターに対する満足度が高まり、身内や近所の知人を口コミで誘う会員が増えていることが大きな原動力となっている。

ボランティア活動の考え方

狛江市SCでは、年間を通じて活発にボランティア活動や地域な



狛江市SCのボランティア活動には、全会員に周知して行うもの(写真上は「多摩川統一清掃」と、地区ごとに行うものがある



どのイベントに参加している。

ボランティアについては公益社団法人の地域貢献活動として、地域などのイベントへの参加はセンターをPRする機会と捉えている。また、どちらについても、集まって行動することによって、会員同士の仲間づくりや生きがいを創出するきっかけとなることを期待し、取り組みを推進している。

池田あけみ常務理事兼事務局長は、次のように語る。

「せっかく入会した会員に、狛江市SCに入って良かったと感じてもらいたい。就業にもボランティアやイベントにも参加して、体験を通して「共働・共助」を実感し、仲間と一緒に行動することの喜びも味わってほしい。会員の仲間意識を高めるように、地区役員

- や職員を通じて声掛けをして、石黒實会長が率先してさまざまな活動に参加し、場を盛り上げてくれます。当センターの自慢は、会長をトップにした組織体制がきちんとできています。市内を五地区に分けて、地区ごとに中長期計画を策定し、ボランティア活動なども計画的に行っています。そうするうちに会員の参画意識が高まり、活動が活発になるにつれて会員数が増びていきました」。
- ボランティア活動は、次の二種類がある(カッコ内は平成三十年度の参加会員数)。
- ①全会員に周知して行うもの
- 「多摩川統一清掃」四月実施(四十四人)
- 「狛江市クリーン大作戦」一月実施(二十五人)
- 「年末狛江駅周辺清掃活動」年末実施(六十一人)
- ②地区ごとに行うもの
- 五地区でそれぞれ年三〜十二回、清掃などの活動を実施

会員が輝けるような楽しみ方を考える

地域のイベントに参加するときには、準備や片付けなどを手伝う会員をボランティアで募っている。例えば、毎年参加している狛江市の夏の人気イベント「狛江古代カップ多摩川いかだレース」には、会員百人ほどがボランティアで関わっている。

このイベントは、手作りのいかだで多摩川を下って、タイムやいかだのデザインなどを競うもの。市内外から九十チーム前後が参加する。

狛江市SCも、ものづくりが得意な会員がいかだを手作りしている。タイムではなかなか勝てないため、デザインやアイデアで勝負して観客に注目してもらい、センターのPRと大会を盛り上げることを狙って参加しているそうだ。

令和元年の大会では、石黒会長率いる「元気号」と、浅沼洋子副

会長と池田事務局長ら女性が乗る「和号」の二艇が参戦。「元気号」は、漕ぎ手がロックバンド・クイーンのメンバーに扮装し、いかだをステージに見立てて、紙などで作った楽器を搭載して音楽に合わせ進んだ。一方、「和号」のいかだは花火に見立てた装飾を施し、ベイ・シテイ・ローラーズの曲に合わせて登場した。

さらに、チャリダーを含む応援団、いかだの搬入やバーベキューの準備をする係など、総勢百人以上の会員がイベントに携わった。「クイーンの楽器は紙製ですが、本物のような精巧な作りです。応援団には七十代、八十代のチャアガールもいて、元気に声援を送ってくれました」と池田事務局長は会員を誇る。

ほかのイベントでも「同じやるなら、より楽しもう」と企画から注力し、「会員が輝ける、スターになれるような楽しみ方を追求します」と池田事務局長。会員には、

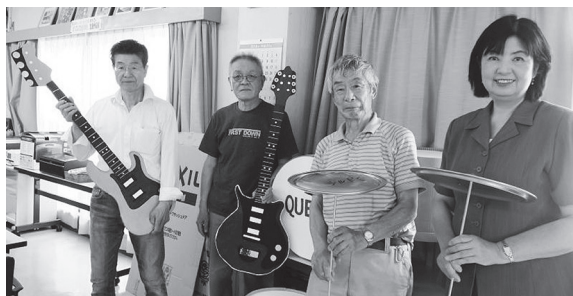


狛江市SCは、「狛江古代カップ多摩川いかだレース」に2艇の手作りいかだで参戦。写真は、ステージに見立てたいかだに、クイーンに扮したメンバーが乗り込み、観客の目を引き付けた「元気号」

「今日が一番若いんですよ。思い切って楽しませよう」と呼び掛けて、はじけるような時間を会員、役員、職員と一緒に過ごしているという。

ほかにも、「こまえ桜まつり」「市民まつり」、各地区の盆踊りなどのイベントに参加。

平成三十年度に開催した同セン



写真左は、いかだに搭載する楽器を製作した会員と、池田あけみ事務局長（右）。写真下は、大盛り上がりでの応援団

ターの設立四十周年記念式典では、多数の会員が、モダンな創作ダンスを披露した。

オリ・バラのボランティアにチームとして申し込む

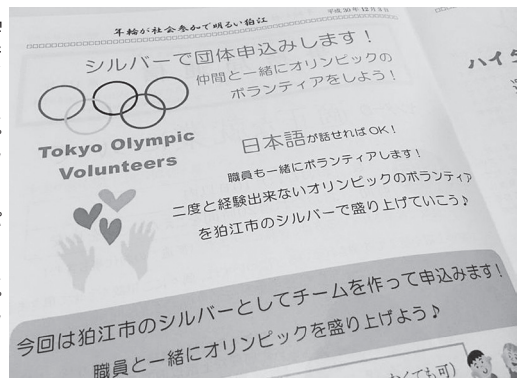
来年開催される「東京オリンピック・パラリンピック」のボランティア参加も、「二度と経験できない



いオリンピック・パラリンピックのボランティアに仲間と一緒に参加しよう。狛江市SCで盛り上げていこう」と平成三十年十二月発行の「事務局通信」で周知して、参加会員を募った。

狛江市SCとしてチームを作って参加するもので、申し込みは事務局で取りまとめ、職員も一緒に

「東京オリンピック・パラリンピック」のボランティアの参加会員を募った、柏江市SCCの「事務局通信」



参加する。こうすることにより、一人で参加する勇氣はなかったけれどセンターのみんなと一緒にやらせてみたいという会員から応募があり、十八人の参加が決定。今年三月には、参加会員と大会主催者側との面接が行われた。

同センターでは、会員が通いやすい武蔵野地域周辺の会場での活動を希望している。ボランティアの活動時間は一日当たり五時間、

全五日間程度（連続していなくても可）。活動内容は、会場周辺の観光・交通案内という。

池田事務局長は「八十代の会員も参加します。こんな年齢でもできるかしらと言っていました、一緒にやればできます。元気な高齢者の代表として、活動することを楽しみながら、おもてなしの心で訪れる人たちを迎えたいと考えています。外に向かつては、元気な会員を自慢したい。海外から訪れる人たちにシルバー人材センターを知ってもらいたいという気持ちもあります」と意気込みを話す。

人生に花を咲かせたい

会員による活動が活発になる中、柏江市内にある慈恵第三看護専門学校から、学校祭で行う学生の合唱コンクールの審査員を会員にボランティアでお願いしたいという依頼があり、引き受けることになって、新たな活動が加わった。

池田事務局長は「学生が相手の

ボランティア活動にワクワクしますし、今後いろいろなかたちでコラボできるのではないかと夢が広がります」と笑顔を見せる。

今後の課題と方向性については、「会員の平均年齢は七十四・九歳と高く、プラチナ会員制度も導入して、生涯仲間でいられる組織となつていきます。八十八歳で入会する人もいますし、九十八歳でチラシ配布などの仕事に就いている会員もいます。それぞれに合った仕事を提供することが安全就業につながるの、生きがい就業となるように会員をサポートします。今

後もシルバー人材センターに入つて良かったと思ってもらえるよう「生涯現役」をキャッチフレーズにして、さらに会員を増やし、明るく楽しい元気な組織運営に努めます」とまとめた。

また、会員はそれぞれに得意分野や豊かな経験を持っているので、「その宝をどう引き出し、輝かせるか。一人一人の人生に花を咲か

せる、センターはおそらくその最後の機会を握っているわけですから、職員には責任があります。重責ですが、プロとしてやりがいがあります」と、会員を支える覚悟と抱負を明るい表情で語った。

(増山美智子)

事業運営状況 (平成26年度～平成30年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平26	354	153	507	2.2	486 (51,584)	95.9	2,845	175,168	25.7/74.3
27	360	151	511	2.2	478 (52,273)	93.5	2,847	176,527	24.8/75.2
28	347	165	512	2.2	474 (51,534)	92.6	2,695	177,823	27.0/73.0
29	375	189	564	2.4	503 (54,133)	89.2	2,669	194,271	26.8/73.2
30	408	221	629	2.6	532 (56,606)	84.6	2,462	201,167	25.8/74.2

※平成28年度以降の受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、30年度は請負・委任と労働者派遣事業が対象